
特集 最近の医療における感染症対策と研究の進歩

1 : 最近話題の感染症 - ゲノム解析から臨床まで -

【巻頭言】

安 友 康 二 (徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部先端医療創生科学講座生体防御医学分野)

馬 原 文 彦 (徳島県医師会生涯教育委員)

感染症は医療現場で最も頻回に遭遇する疾患であります。大半の場合は抗生物質等によりコントロールは容易です。しかし、免疫不全時の感染症や、多剤耐性菌に対しての治療はしばしば難渋します。更に、SARSに代表されるように新興・再興感染症の氾濫が人類を脅かしつつあります。そのような現状をふまえて、予期せぬ感染症に対してどのように医療現場は対処すべきか、既知の感染症に対しての予防あるいは治療法開発はどのような方向に進むべきか等について議論することは非常に重要であると考え、今回の特集を組みました。

SARSは中国を中心に流行し、日本への侵入が懸念されましたが現在までのところ日本国内での感染者は確認されていません。しかし、医療サイドとしてはSARS患者が発生したときの対処法を整えておくことは非常に重要です。そこで、徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部の西岡安彦先生に、台湾でのSARS対策の視察をふまえて、徳島県におけるSARS対策の現状について報告して頂きます。

インフルエンザは毎年流行する感染症ですが、インフルエンザ脳炎による死亡例の報告、あるいは鳥インフルエンザの流行により一段と注目されている感染症です。インフルエンザワクチンによる予防効果は不確定であり、抗インフルエンザ薬についても耐性の増加が懸念されています。そのような現状をふまえて、インフルエンザワクチンあるいは次世代の抗インフルエンザ薬の開発の可能性について、徳島大学分子酵素学研究センターの奥村裕司先生に概

説して頂きます。

ヒトゲノムプロジェクトとともに、各種の微生物のゲノムプロジェクトも進行し、プロジェクトの遂行のためには各国で多大な研究費がつき込まれています。すでに全ゲノムが解読された微生物もある一方で、現在進行中のものもあります。この微生物ゲノムプロジェクトの現状とはどのようなものか、将来的にその成果がどのように医学へと還元・応用されるのかについて、徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部の桑原知巳先生に、報告して頂きます。

感染微生物に抗するためには、ワクチンを開発して、発病を予防することが最も理想的です。しかし、さまざまな理由でワクチン開発が困難な微生物が存在しています。最近の医学研究により、新たな視点からのワクチンの開発が研究レベルで進行しています。そのワクチン開発の現状および問題点について、徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部の岸原健二先生に解説して頂きます。

人類は感染微生物に抗しながら、あるいは共存しつつ進化を遂げてきたと考えられています。爆発的に進歩したと言われる現代の医療を持ってしても、感染症は人類の生命を脅かす強力な敵であり続けています。感染症を撲滅することは夢物語かもしれませんが、少なくとも感染症に対抗するできる限りの策を考案し実践することは、医療に携わる人達にとって目の前に横たわっている課題であり、この特集がその一助になればと思っています。